

"FLAT" apartment



■ site



八王子市下植木
 ・起伏にとんだ地形
 東京の中心地から電車で30分圏内の近郊に位置し、1965年から多摩ニュータウンとして市街地開発事業が行われてきた。しかし、起伏に富んだ丘陵地ならではの土地の形状や多くの山々や林は現在も残っており自然豊かな街並が見られる。

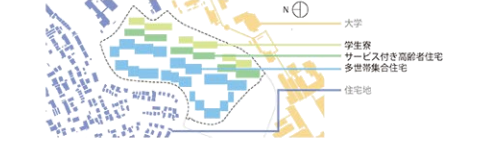
・幅広い年齢層
 ニュータウン開発で増設された集合住宅に住む若い核家族 / 近年増えつつある高齢者 / 敷地周辺に多く立地する大学通う大学生

このような敷地の特徴を利用することで、現在見られる郊外の典型的な高層集合住宅とは異なる、新たな郊外団地の在り方をソーラーシステムを用いて提案する。

■ flatten of Living power

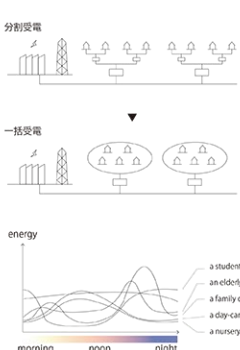
この地域に多い大学生 / 高齢者 / 核家族を対象に下3つのプログラムを規則正しく配置 → 1日の行動パターンの違う様々な年齢層が、同じ敷地内で交わることで「何時でも人の気配が感じられる」人々のエネルギーの耐えない街を計画する。

- ・学生寮
 現在不足している（開校大学の入学倍率は3.4倍である）寮の新設をする。大学との相互利用を考慮し、大学に沿った道路に接するように配置する。活動時間帯にばらつきがあるので、物憂な夜道のちょっとした見守りとして機能する。
- ・サービス付き高齢者住宅
 郊外で深刻化する高齢化問題に対して、サービス付き高齢者住宅を新設する。異種の集合住宅に挟まれる配置とし、積極的に高齢者の自立・交流を支援する。また、高齢者の活発な活動が、敷地の中心から広がり、敷地内の日中の活動気配の影を照らすように機能する。



住宅側から ▶
 1~2階をピロティや駐車場に利用することで、中庭への視線の抜けをつくり道路への圧迫感得を減らす。また、建物より囲まれているそれぞれの中庭への風の通りとする。

■ flatten of Energetically power



スマート化に伴う電力供給の高压化（ハイブリッドカーの充電を高速に行うためなど）対策として、団地内の3つの区画ごとに一括受電する電力供給方式とする。

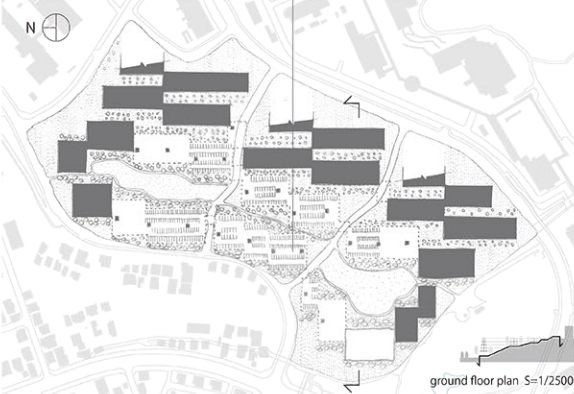
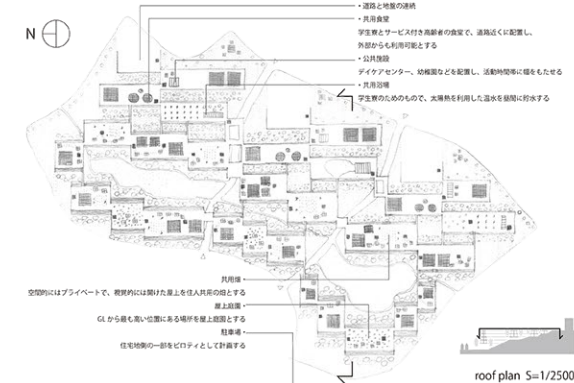
異なる用途の建物の活動時間帯の違いを利用して、区画単位の消費電力のばらつきを最小限に抑えつつ、さらに日中新電したソーラーエネルギーを、消費電力の「山」に利用する。契約電力の消費を一日を通して「フラット」なものとする事で、低料金契約による効率的な電力使用が可能となる。

■ flatten of Building power

大学側道路と住宅側道路の間の15mに及ぶ高低差を利用低密度で高層だったこれまでの郊外集合住宅から、高密度で低層で地面をほうような新しい住戸形態に変容させる

大学側の道路とフラットに繋がる住戸の屋面上にもう一つの地盤が出来る

一利点一
 ・2つのパブリックスペース
 ①ソーラーパネルを配した屋上庭園 ②斜面を登って風の抜ける地上庭園
 ・アイコンとしてのソーラー / 集熱パネル
 通常、ソーラー / 集熱パネルは屋根や屋上といった目立たない場所におかれる。しかし、地上面とフラットに繋がる屋根の上に配置する事で屋上庭園のファニーチャーやソーラータウンのアイコンとして近くに近所で利用される。
 ・日射取得面積の拡大
 低層で高密度に建物を配置し、屋根面をフラットにする事で日射取得効率を上げる



▶大学側道路から道路と同じ高さで住宅群の屋根面が並びその上にアイコンのようにソーラーパネルが並ぶ

